

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070101120		
法人名	社会福祉法人 わかうら会		
事業所名(ユニット名)	わかうら園第1グループホーム		
所在地	和歌山県和歌山市田野180番地		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	令和2年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://wakaurakai.or.jp/facility-service/group-home1">https://wakaurakai.or.jp/facility-service/group-home1</a>
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会		
所在地	和歌山県和歌山市手平二丁目1-2		
訪問調査日	令和2年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性を大切に、その人らしい生活が送れるようにスタッフ全員で、同一計画に沿った支援をしています。環境整備を行いリロケーションショックの軽減及び事故防止に努めています。機能訓練により残存機能維持と機能低下防止に向け援助しています。  
医療と連携の元、異常の早期発見と治療に努め安心、安全な暮らしが送れるように援助しております。コロナウイルス感染防止の為、ご家族との面会を制限させて頂いているので、近況をお知らせする為写真と文面を郵送しています。笑顔が絶えないグループホームを目指しこれからもスタッフ一同援助をさせていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

和歌浦を見渡す高台の景観に恵まれた広大な敷地に同法人の施設が複数箇所ある。法人理事長が自治会長であることから、地域とのつながりが深く、地域において、施設内のなみはやカフェは地域の住民との交流の場になっている。施設間の交流や職員と一緒に季節行事の開催、敷地内の散歩など、新型コロナウイルスの影響の状況下でも、感染予防対策とした上で、ニーズに合わせて、サンタからプレゼントがあるクリスマス会、忘年会、ドライブ初詣を企画している。敷地内の菜園で野菜作りを楽しみ、収穫も入居者が職員と共に行っている。管理者、職員全員でグループホーム本来の目的の入居者を中心にした生活を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	解かりやすく馴染める理念で、目の届く箇所に掲示して、意識付けをし支援に繋げる努力をしている。	職員の日々の関わりと業務で培った経験により、2年前に入居者が自分らしくゆっくり過ごすことができるようにホームの理念を変更した。管理者、職員は入居者と共に日々のケアで理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ禍の中以前のように出かけたり、来てもらったり出来ないが、カフェ等感染対応しながら出来る事で交流を図っている。	法人内のカフェは地域住民との交流の場であり、地域との触れ合いの機会を大切にしよう取り組んでいる。コロナ禍で地域に出掛けることは難しいが、マラソン大会には敷地内から距離をとっての応援を企画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時の緊急受け入れや認知症の理解や支援を文面や都度の電話連絡で行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告をして取り組み状況等を話し合い意見を職員で話し合いサービスの向上に繋げられるよう努力している。	運営推進会議は奇数月の月末に開催し、市の職員、地区長、民生委員、家族代表などが出席する。コロナ禍では、活動報告を郵送して意見を返送する形式の書面会議を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事務手続きや、訪問時・運営推進会議等で現場の状況を伝え協力関係を築けるよう努めている。	月に1回は、市町村に出向き介護保険の申請や変更申請を行い、普段は電話でも今後のサービス取り組みについての相談、助言を得る機会を持つことで、協力体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指針に基づき毎月委員会を開催、現状報告等多職種連携の下に廃止に取り組んでいる。また、やむなく拘束となっている方については十分な説明と改善後の迅速な介助についても実施している。	身体拘束をしないケアを指針とする法人内の研修や会議で職員間で周知され実践できている。玄関は、防犯で夜の施錠以外は開錠している。日中は見守りを行うことで、外出を希望する入居者には職員と一緒に外出する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し認識を高め、マニュアルや資料をいつでも見られる所に置き、早期防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内で職員が研修等で学ぶ機会を作り、冊子を読むなどして制度の理解をし必要時に活用出来るよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者が契約書・重要事項説明書に沿って説明を行い、入居後の不安や疑問点にはその都度、話し合い納得してもらえるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や面会に来られた際また電話等で家族様と直接口頭で話したり、お便りを送ったりして意見交換し情報を共有して運営に役立てている。	玄関の意見箱利用は少なく、面談時口頭での意見が多い。また、お便りを活用して要望が出しやすい状況を整えている。家族の率直な意見を職員が共有して不満が出ないような関係性が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回事業所会議を行い意見交換をしたり、日常的に話し合う時間を設け、支援の向上・職員の意欲の向上に努めている。また、個人面談を実施し職員個々に意見を言い易い環境を作っている。	日々の支援の中で、気付いたことは職員間で検討し、入居者のカンファレンス、月1回の会議の中で率直な意見や、業務の改善点など、積極的に管理者に提案を行うことで、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者には評価等行っており、資格取得の助成金制度もある。職員個々には業務目標個人シートを記入してもらい何か目標を決めて業務に付く事によってやりがいや向上心を高めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	感染防止の為の対策をしたうえで、職員が希望する研修に参加する事が出来、働きながら知識や技術を身につけ、職員個々のレベルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、以前の様にスポーツやレクリエーションでの交流は困難となったが、相互に連絡しあってサービスの向上に繋げていく取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から傾聴すると共に要望を聞き取り、事業所内で情報を共有し統一したケアをしていく事で本人の安心感を確保し信頼関係を築いていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から連絡を密にし要望等を聞き取り、どんな事でも相談してもらえるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族様と面談し情報を集め、また希望を聞き取り、その時点で必要な支援を見極め、介護の他医療など必要な支援が受けられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的に「してあげる」のではなく人生の先輩の知恵を借りたり互いに支え合えるよう努め信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話等で本人の状態を細かく伝え情報を共有し協力をお願いしたり出来る関係を作っている。また定期的に写真、手紙を送りコロナ禍の中でも関係を築いていくよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所には以前の様にはいけないが、コロナウイルス感染が終息すればまた、出かける事が出来るし、人間関係は途切れないように連絡や手紙のやり取りで支援している。	コロナ禍で外出や訪問の制限の中で、恒例のマジックショーなどの慰問にも影響されている。友人との電話での対応、リモートで面会や友人との交流ができるような取り組みを考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様1人1人の性格を把握し、一緒に出来る事等を捜し関わりあえるよう努めている。また職員が利用者様同士の会話の仲立ちをする事で孤立する事がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所先や入院先・家族様から定期的に情報を得るなどして退所後の経過を把握し、相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向・希望を引き出せるよう日々の会話を大切に、行動や会話の中から思いや意向を把握できるよう努めている。	本人の意向の把握は難しいが、家族の意見や、日々の関わりの中で、個別性を重視して職員が忍耐強く関わることで、本人の視点に立った意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に他事業所から情報を集めたり家族様からの聞き取り、また本人との日々の会話からこれまでの生活環境を把握し、生活のリズムや馴染みの暮らし方を理解できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日常生活記録を細かく記入しそこから現状の把握又は残存能力を活かせる支援方法を導き職員全員で統一したケアができるよう努めている。家族様にも報告し情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事業所会議で意見交換をし現状に合った介護計画を作成し支援に繋げている。家族には都度連絡して、意見を聞いたりし、関係作りを行っている。	会議の中で本人、家族の聞き取り、入居前の情報や医療面の情報など、包括的にとらえ、日々の記録により入居者の生活状況を把握し、グループホーム本来の活動ができる事を目指す目的で計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の様子を細かく記入し職員間で共有しながら本人に合ったケアを実践しサービス計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化している利用者様の状態に応じたニーズ・課題を見極め、併設の診療所や他事業所と連携を取り、その時々に応じた対応ができるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、外出等もままならない状態であるが、地域資源の把握は出来ている。グループホームで安全で豊かな暮らしを楽しんでおられる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の希望するかかりつけ医を受診し、必要であれば職員が送迎・付き添い、バイタル表やケース記録を活用し日常の状態を伝え安心して受診し医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医の希望があれば、家族対応でお願いする。希望すれば提携医療機関である法人内の診療所から定期往診がある。専門医の受診は職員が送迎を行い、病院で合流して家族に状態の情報提供をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の診療所の看護職員に報告・連絡・相談し助言を受け、日常の健康管理や適切な医療を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	治療に専念し、早期退院が出来るよう病院関係者や家族様と定期的に連絡を取り情報交換し、状態を把握できる関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族様の希望に基づき、法人の看取り指針を十分に説明し、方針や支援方法を家族様と共有しチームでの支援に取り組んでいる。	基本は看取りは行わないため、入居時診療所の主治医より医療的措置の治療方針を書面で取り交わす。同法人の特別養護老人ホームに移ることを含めて、医師、職員が連携をとり、その都度、意思の確認をとり、最良の場所の提供を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法等の研修を受け緊急時に対応出来るよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施し、停電時や夜間に備えてペンライトを常備し万が一に備えている。また 地域の避難場所になっている。非常食(水・食糧等)は備蓄している。	法人全体で1年に1回消防署の指導のもと、地域の避難場所であり地域住民の協力含む避難訓練を実施する。ホーム独自の避難訓練は、職員と入居者が参加して毎月行っている。自家発電と1週間分を備蓄してる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや言葉使いについては細心の注意を払い職員同士でお互いに注意出来る関係を築き対応している。	一人ひとりの意向や思いを把握するため、職員の接遇の外部研修や、職場での研修を行っている。声掛けにも姓で呼ぶことを基本に尊厳を重視して、個人情報も鍵のかかる書庫に保管する配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に耳を傾け、希望や好みに合った生活が出来るよう心掛けている。また、方言や昔ながらの言葉を使って本人の希望が聞けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや生活リズムに合わせた暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身で出来る方には好みのおしゃれをして頂きそうでない方には、スタッフが関わり、その人の好み、その人らしさを大切に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	中庭で収穫した食材で1品作ったり、当園の食事で提供されないような物・食べたい物を聞き、昼食作りで作ったり外食に出かけたりしている。食事を作る事・食べる事を楽しんでもらえるよう努めている。	野菜作りで収穫は、職員と入居者が一緒に行い、その食材を使い調理を行っている。月1回職員、入居者が共に昼食づくりや、誕生日会のおやつ作り、クリスマス会にはケーキを焼くなど、食の楽しさを共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成する献立で食事が提供され、食事摂取量・水分補給量を記録し個々の状態を把握している。また 水分摂取は拒まれる事が多い為、本人の好みの物で水分補給をしてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 声掛けや確認をしながら口腔ケアを実施している。磨き残しがあれば介助をする等、個々に応じた対応をしている。また、歯科衛生士による歯磨き指導を受けることも出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握すると共に、習慣を活かしたり行動を察知し声掛けをする事でトイレでの排泄ができています。	おむつをせずトイレでの排泄を基本に、個別に排泄パターンを把握し、尿意のない人にも、プライバシーに配慮した声掛けをして、トイレでの排泄を促している。排泄のタイミングが重なった時は同法人のトイレを利用する。	使用頻度の少ない男性小便器のスペースを活用し、トイレ個室の増設を検討して、個室待ちの混雑を解消することにより、更なる排泄の自立支援に期待したい。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事摂取状況や水分補給で注意し、個々の排便の状況を把握し必要であれば看護職員や栄養士に相談し個別ケアに取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できるよう準備し、一人ひとりがゆっくりと入浴出来るよう配慮し入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	希望があれば、毎日の入浴できる体制で、支援を行っている。基本は同性介助を心掛けている。入浴拒否の入居者に対しても、入浴を楽しんでもらえるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて好きな時間に好きな場所で休息を取れるよう照明や空調に気を配りゆっくりと過ごせる空間作り・環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書や医師・看護職員・薬剤師の指示や助言を聞き、服薬介助・確認を行い日常の様子を細かく記録し体調の変化に早期に気付けるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	情報収集で得た生活歴を基に本人の趣味や残存能力を活かし個々に応じた楽しみや役割を持ってもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	今は、コロナ禍の状況である為、外出の機会は減少してしまいましたが、終息すれば、一人一人のニーズに答えられる支援を行って行く。	外出支援が制限されている中、施設の立地条件を利用して、天気の良い日はホームの近くの敷地内の散歩や、ドライブを企画して、入居者の個別のニーズに答えられるような取り組みを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	訪問販売で職員と共に嗜好品の値段を見ながら購入したり、外出時に買い物をしてしている。また お金の所持については本人の理解力や不安感を考え、家族様と相談するようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や家具・雑誌等を置き、居心地良く落ち着いた過ごせるよう、空調にも配慮し工夫している。	天井は高く、吹き抜けの窓からは光が差し込み、ホールは明るく広く、家具等を配置して落ち着いた過ごせる空間になっている。廊下は広く歩行器で歩行するにもゆとりがある。ホールから野菜菜園が眺められ野菜の成長を楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや椅子・テーブルの配置を考え気の合った方同士で会話をしたり個々に好きな場所で自由に過ごせるよう工夫している。食事の際も楽しく食べられるように席の配慮を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた馴染みのある家具等を持ってきてもらい写真や小物を飾り、本人の個性を尊重し居心地良く過ごせる空間作りに努めている。	各居室に箆笥があり位置は好みで変更できる。自身の使い慣れた家具を置いても十分な広さがある。それぞれの居室にも、加湿器も設置されていて感染予防にも取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアはバリアフリーにトイレや風呂場・廊下に手摺を設置し、一人ひとりに応じた分かりやすい目印をつけ、個々に自立した生活が送れるよう工夫している。		